

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0328

(注)本稿は2014年10月16日から31日まで5回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2014.11.1  
前田 高行

## MENA(中東・北アフリカ)諸国の GDP の比較(2014年10月版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その3)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. GDP 成長率(2014/15年の見通し・予測)	2
(1)2014年の GDP 成長率	2
(2)2014年と2015年の成長率の比較	2
(3)今回(10月予測)と前回(4月予測)の比較	3
2. 2014年の各国の名目 GDP(予測)	3
3. MENA 各国の一人当たり GDP	4
4. GCC 主要4か国と米国、日本、中国の成長率の推移(2011~2015年)	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の19の国と1機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第3回のランキングは IMF が最近発表した「World Economic Outlook Database, October 2014」(以下 WEO2014Oct)をベースに各国の GDP について比較しました。IMF では毎年4月及び10月に世界各国経済の基礎的数値の経年変化を公開しています。その中には経済成長率、ドル建て・各国通貨建ての GDP 金額、一人当たり GDP、貿易額、財政収支など数多くのデータがあり、特に当年度或いは次年度の経済成長率は官庁、メディア等々で広く引用されています。

ここでは2011年から2015年までの名目 GDP 及び一人当たり GDP(いずれもドル建て)を取り上げ、また成長率については前回の4月版(以下 WEO2014Apr)と比較して MENA 各国の経済状況の変化を検証します。なお WEO2014Oct では MENA19カ国1機関のうちシリア及びパレスチナ自治政府のデータは発表されていません。MENA 各国に日本、米国及び中国のデータも加え、合わせて比較します。

(注)WEO ホームページ:

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2014/02/>

## **1. GDP 成長率(2014/15年の見通し・予測)(末尾表 3-T01 参照)**

(最も成長率の高いカタールは+6.5%！)

### **(1)2014年の GDP 成長率**

MENA18カ国のうち2014年の GDP 成長率(見通し)が最も高いのはカタールの6.5%であり、これは中国の7.4%よりは低いものの世界平均の3.3%の2倍近い高い成長率である。カタールに次いで高い成長率を示しているのはサウジアラビアの4.6%、UAE4.3%、バハレーン3.9%など GCC 各国が上位を占めている。オマーン、クウェイトを加えた GCC6カ国の平均成長率は4.0%であり MENA18カ国の平均1.6%を大きく上回っている。GCC 諸国は高い油価に支えられ公共投資、民間消費など経済全般が好調であり他の MENA 諸国と一線を画している(但しクウェイトだけは産油国でありながら MENA 平均を下回る1.4%の低い成長率にとどまっている)。

GCC 以外ではアルジェリア、ヨルダン、モロッコ、トルコの4カ国が3%台を維持しており、ほぼ世界平均の成長率である。2%台にはチュニジア(2.8%)、イスラエル(2.5%)、エジプト(2.2%)があり、この成長率は米国(2.2%)と同等またはそれ以上である。MENA18カ国のうちマイナス成長率の国はリビア(-19.8%)及びイラク(-2.7%)の2カ国であり、それ以外の MENA 各国はすべてプラス成長率である(但しシリアは IMF 発表値がない)。ちなみに日本の成長率は0.9%である。

(来年は今年より少し明るい！)

### **(2)2014年と2015年の成長率の比較**

2014年と2015年の MENA 各国の成長率を比較すると、最も大きく変化しているのはリビア(-19.8%→+15.0%)である。これは現在内戦状態にある石油生産を始めとする同国経済が来年は回復するとの前提に立っているためと考えられる。またイラクも-2.7%から+1.5%に改善する

と見込まれており、この結果 MENA18カ国(シリアを除く)の GDP はすべてプラス成長に転化し、2015年の MENA の平均成長率は+4. 2%となる。これは中国の+7. 1%には及ばないものの米国の3. 1%を上回り、日本の来年の成長率見込み0. 8%に比べると大きな差がある。

MENA の GDP の大きな部分を占めるのはサウジアラビアなどの GCC6カ国であるが、GCC の平均成長率は2014年の4. 0%に対し2015年は4. 1%と殆ど変わらず、サウジアラビアは逆に4. 6%から4. 5%へと成長率が若干鈍るものと予測している。その他 GCC の中ではカタールの成長率は6. 5%(‘14年)→7. 7%(‘15年)、UAE 成長率は4. 3%(‘14年)→4. 5%(‘15年)といずれも今年を上回る成長が予測されている。

なお米国、日本及び中国の場合は米国が今年より0. 9%高い3. 1%の成長が見込まれているのに対して、日本と中国はそれぞれ今年より0. 1%(0. 9%→0. 8%)、0. 3%(7. 4%→7. 1%)といずれも成長率が低下するとしている。米国はシェールガス・オイルの増産によりエネルギー自給の足場を確保しつつあり経済は堅調であるが、世界経済に本格的回復の兆しが見えない中でエネルギーを輸入し、製品の輸出に頼る貿易構造の日本と中国は苦しい状況が続くようである。

(米国と湾岸産油国を除き成長率は軒並み下方修正！)

### (3)今回(10月予測)と前回(4月予測)の比較

IMFは今年4月の予測に対し今回は今年及び来年の GDP の成長率をいずれもほぼ全面的に下方修正しており、IMF は現在及び将来の世界経済に対して悲観的である。

今年の成長率見通しを前回と今回で比較すると、世界平均では前回の+3. 6%に対して今回は+3. 3%と0. 3%ダウンしている。米国、日本、中国の3カ国もいずれも0. 2~0. 6%下方修正されている。MENA18カ国について見ると、平均では3. 0%から1. 6%に大幅ダウン、GCC6カ国平均も4. 2%から4. 0%へとわずかながら下落している。地域の大国であるイランは1. 5%の横ばい、エジプトは2. 3%→2. 2%とわずかではあるがダウンする。このようななかでサウジアラビア、カタール及びトルコの3カ国は今年の GDP 成長率が上方修正された数少ない国である。

さらに来年の成長率予想を前回と今回で比較すると、世界平均では3. 9%から3. 8%に下落している。MENA18カ国では平均1. 3%ダウンしており、GCC 平均も+4. 2%から+4. 1%へとわずかながらダウンしている。但しGCC の中でも主要な産油・ガス国であるサウジアラビア、UAE、カタールについては来年の成長率を上方修正している。また米国、日本、中国のうち日本と中国は下方修正されたが、米国は+3. 0%から+3. 1%に上方修正されている。IMF の見通しに関する限り来年は米国及び中東産油・ガス国の一人勝ちの様相を呈している。

(MENA の名目 GDP 総額は日本の約9割！)

## 2. 2014年の各国の名目 GDP(予測)(表 3-T02 参照)

MENA18カ国の中で2014年の予測名目 GDP が最も大きい国はトルコの8, 133億ドルであり、サウジアラビアが7, 779億ドルで続いている。この2カ国がMENA の合計 GDP に占める比率

はそれぞれ18.9%と18.1%であり、両国は MENA 諸国の中では突出した GDP 大国である。第3位は UAE の4,164億ドル、第4位イラン(4,027億ドル)はいずれもトルコ或いはサウジアラビアの半分にとどまっている。

5位以下11位まではイスラエル(3,050億ドル)、エジプト(2,849億ドル)、イラク(2,322億ドル)、アルジェリア(2,278億ドル)、カタール(2,120億ドル)、クウェイト(1,793億ドル)、モロッコ(1,126億ドル)と続いている。以上11カ国が年間 GDP1千億ドルを超える国々である。UAE、カタール、クウェイトなど人口の少ない産油国がイラン、エジプト、イラクなど地域の大国と遜色のない GDP を誇っている。

GDP が1千億ドル未満の国は、オマーン(805億ドル)、リビア(493億ドル)、チュニジア(491億ドル)、レバノン(475億ドル)、イエメン(455億ドル)、ヨルダン(366億ドル)、バハレーン(330億ドル)である。MENA で GDP が最も小さいヨルダンやバハレーンはサウジアラビア或いはトルコの20分の1以下である。

MENA18カ国の GDP 総額は4.3兆ドル、全世界の GDP の5.5%であり、トルコ、サウジアラビア、UAE 及びイランの上位4カ国で MENA 全体の56%を占めている。世界 GDP トップ3の米国、中国及び日本の GDP はそれぞれ17兆ドル、10兆ドル、4.8兆ドルであるが、MENA の GDP 総額は日本の9割、中国の4割、米国の4分の1である。

これらのことから MENA 地域は世界レベルで見れば GDP が低く、同時に域内では GDP 格差が極めて大きいと言えよう。

(カタールの一人当たり GDP は日本の2倍以上！)

### **3. MENA 各国の一人当たり GDP**

(表 [http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/3-T03.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/3-T03.pdf) 参照)

2014年(見込み)の一人当たり GDP が MENA 諸国で最も大きい国はカタールの94,744ドルである。これはルクセンブルグ(116,752ドル)、ノルウェー(99,295ドル)に次いで世界でも三番目に高い。MENAでカタールに続くのがクウェイト(44,850ドル)及び UAE(44,771ドル)であり、カタールが飛びぬけて高いことがわかる。ちなみに米国は54,678ドル(世界9位)、日本は46,175ドル(世界26位)であり、いずれもクウェイト、UAE よりは高い。

4番目に高いイスラエルは37,914ドル、5位から7位にはバハレーン(28,424ドル)、サウジアラビア(25,401ドル)、オマーン(21,688ドル)が2万ドル台で並んでおり、MENA上位7カ国のうち GCC が6カ国を占めている。8位レバノン(10,531ドル)及び9位トルコ(10,518ドル)の両国は1万ドルを超えているものの7位オマーンの半分以下である。

10位のリビア以下は下記の通りいずれも一人当たり GDP は1万ドル未満である。

リビア(7,942ドル)、アルジェリア(5,886ドル)、イラク(5,687ドル)、イラン(5,165ドル)、ヨ

ルダン(4, 618ドル)、チュニジア(4, 467ドル)、モロッコ(3, 392ドル)、エジプト(3, 337ドル)、イエメン(1, 655ドル)、(シリア、パレスチナは公表数値なし)。ちなみに中国の一人当たりGDPは7, 572ドルであり、リビアとほぼ同水準である。

MENA 最下位のイエメンはトップのカタールの実に60分の1である。地域の大国と言われるトルコ、イラン、エジプトは人口が多いため一人当たりGDPはMENAの中下位グループにとどまっており、トップのカタールと比べた場合、トルコは9分の1、イランは20分の1、エジプトは30分の1にすぎない。

MENAの平均の一人当たりGDPは20, 055ドルであり、世界的にみると40位以内でかなり高い水準と言えよう。これはカタール、クウェイト、UAE、サウジアラビアなどのGCC産油(ガス)国があり、しかもカタール、UAEなどは人口が少なくこれらGCC諸国が地域全体をかさ上げしているためである。ちなみにGCC6カ国の平均は43, 313ドルでありMENA平均を2倍以上上回っている。

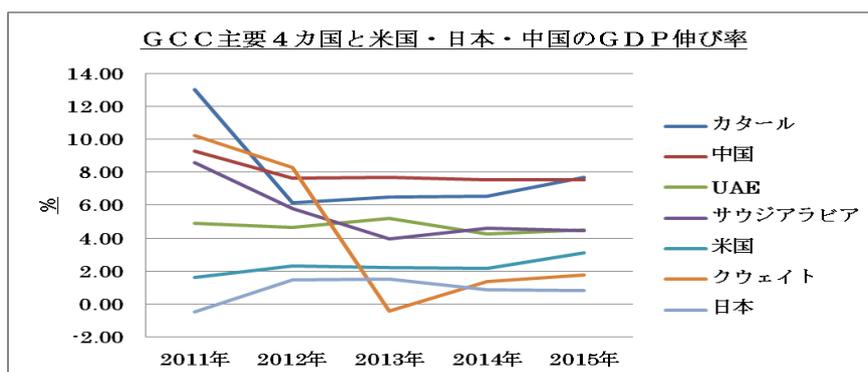
なお一人当たりGDPは各国のGDP総額を人口数で割ったものであるが、IMF統計における計算の母数となる人口、特にGCC諸国の人口数については注意すべき点がある。例えばカタールの人口は約200万人とされており、同国の一人当たりGDP94, 744ドルは同国のGDP(2, 120億ドル。前項参照)をその人数(224万人)で割ったものである。しかし同国人口のうち80%以上はインドなど貧しい国からの出稼ぎ労働者が占めており、カタール国籍を有する自国民は40万人足らずと言われる。通常、統計上の人口数は国籍を有する者のみが対象で一時的な出稼ぎ労働者は含まないが、カタールの一人当たりGDPには出稼ぎ労働者も含まれており実態を正確には表していないと言える。このことは外国人比率が7割を占めるUAE或いはクウェイトについても言えることであり、3分の1が外国人であるサウジアラビアの場合も程度の差はあれ同様である。

このような要素を加味してGDPを算出した統計は見当たらないが、実態的に言えばカタール、UAE、クウェイトの一人当たりGDPはIMF公表数値の数倍に達すると考えられ、これら湾岸産油国の一人当たりGDPが世界最高レベルであることは間違いないであろう。

(高度成長を続けるカタールと中国、成長軌道に乗る米国！)

#### **4. GCC 主要4か国と米国、日本、中国のGDP成長率の推移(2011~2015年)**

GCC4カ国(サウジアラビア、UAE、クウェイト及びカタール)と米国、日本、中国の6カ国の2011年(実績)から2015年(見込み)の5年間の成長率を比較すると、2011年はカタール(13.02%)、クウェイト(10.21%)、中国(9.3%)、サウジアラビア(8.57%)の4カ国がきわめて高い。UAEは4.89%で4カ国よりかなり低いが、米国と日本はこれよりさらに低く米国は1.6%であり、日本の場合はマイナス成長(-0.45%)にとどまっている。



その後2012年から2013年にかけてGCC諸国の成長率は鈍化し、特にクウェイトは8.31%（'12年）→-0.44%（'13年）と急激に落ち込み、カタールも2012年の成長率が6.12%と前年の半分以下に急落、サウジ

アラビアも5.81%（'12年）→3.95%（'13年）に下落している。しかしそれ以降クウェイトを除くGCC3カ国は4%から7%台の安定した成長率を示している。

この間、中国は7%台の高度成長を続けており、各国の今年の成長率は中国7.54%、カタール6.53%、サウジアラビア4.60%、UAE4.28%、米国2.15%、クウェイト1.39%、日本0.89%と予想されている。また来年2015年の見込み成長率はカタール7.70%、中国7.54%と両国が高度成長を続け、UAE(4.50%)、サウジアラビア(4.46%)及び米国(3.09%)は安定した成長が見込まれている。クウェイトと日本はそれぞれ1.79%、0.83%の低い成長率である。注目されるのは日本がわずかなプラス成長にとどまるのに対して米国の成長率が今年を上回り過去5年間では最も高い成長率が予測されていることである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
 E-mail; [maedat@r6.dion.ne.jp](mailto:maedat@r6.dion.ne.jp)

**GDP 実質成長率(2014-15年)**

国名	2014 年 10 月見通し(今回)			2014 年 4 月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2014 年成長率(%)	2015 年成長率(%)	増減	2014 年成長率(%)	2015 年成長率(%)	2014 年成長率(%)	2015 年成長率(%)
アルジェリア	3.8	4.0	0.1	4.3	4.1	▲ 0.5	▲ 0.2
バーレーン	3.9	2.9	▲ 0.9	4.7	3.3	▲ 0.8	▲ 0.3
エジプト	2.2	3.5	1.3	2.3	4.1	▲ 0.1	▲ 0.6
イラン	1.5	2.2	0.7	1.5	2.4	▲ 0.0	▲ 0.2
イラク	▲ 2.7	1.5	4.1	5.9	6.7	▲ 8.5	▲ 5.3
イスラエル	2.5	2.8	0.3	3.2	3.4	▲ 0.8	▲ 0.6
ヨルダン	3.5	4.0	0.5	3.5	4.0	0.0	0.0
クウェイト	1.4	1.8	0.4	2.6	3.0	▲ 1.2	▲ 1.2
レバノン	1.8	2.5	0.8	1.0	2.5	0.8	0.0
リビア	▲ 19.8	15.0	34.8	▲ 7.8	29.8	▲ 12.0	▲ 14.8
モロッコ	3.5	4.7	1.2	3.9	4.9	▲ 0.4	▲ 0.2
オマーン	3.4	3.4	0.0	3.4	3.4	▲ 0.0	0.0
パレスチナ自治政府	-	-	-	-	-	-	-
カタール	6.5	7.7	1.2	5.9	7.1	0.7	0.6
サウジアラビア	4.6	4.5	▲ 0.1	4.1	4.2	0.5	0.3
シリア	-	-	-	-	-	-	-
チュニジア	2.8	3.7	0.9	3.0	4.5	▲ 0.2	▲ 0.8
トルコ	3.0	3.0	▲ 0.0	2.3	3.1	0.8	▲ 0.0
UAE	4.3	4.5	0.2	4.4	4.2	▲ 0.1	0.3
イエメン	1.9	4.6	2.7	5.1	4.4	▲ 3.2	0.1
(MENA 平均)	1.6	4.2	2.7	3.0	5.5	▲ 1.4	▲ 1.3
(GCC6カ国平均)	4.0	4.1	0.1	4.2	4.2	▲ 0.1	▲ 0.0
(参考)							
米国	2.2	3.1	0.9	2.8	3.0	▲ 0.6	0.1
日本	0.9	0.8	▲ 0.1	1.4	1.0	▲ 0.5	▲ 0.1
中国	7.4	7.1	▲ 0.3	7.5	7.3	▲ 0.2	▲ 0.2
世界平均	3.3	3.8	0.5	3.6	3.9	▲ 0.3	▲ 0.0

**GDP at Current Price(2014年10月値)**

順位		国名	百万ドル	%
8	Algeria	アルジェリア	227,802	5.3%
18	Bahrain	バーレーン	33,045	0.8%
6	Egypt	エジプト	284,860	6.6%
4	Iran	イラン	402,700	9.4%
7	Iraq	イラク	232,218	5.4%
5	Israel	イスラエル	304,983	7.1%
17	Jordan	ヨルダン	36,550	0.8%
10	Kuwait	クウェイト	179,332	4.2%
15	Lebanon	レバノン	47,497	1.1%
13	Libya	リビア	49,341	1.1%
11	Morocco	モロッコ	112,552	2.6%
12	Oman	オマーン	80,539	1.9%
-	Ppalestine Autonomy	パレスチナ自治政府	-	-
9	Qatar	カタール	212,013	4.9%
2	Saudi Arabia	サウジアラビア	777,870	18.1%
-	Syria	シリア	-	-
14	Tunisia	チュニジア	49,122	1.1%
1	Turkey	トルコ	813,316	18.9%
3	UAE	UAE	416,444	9.7%
16	Yemen	イエメン	45,452	1.1%
		MENA 合計	4,305,636	100.0%
		(GCC6カ国合計)	1,699,243	39.5%
		米国	17,416,253	22.4%
		日本	4,769,804	6.1%
		中国	10,355,350	13.3%
		MENA 合計	4,305,636	5.5%
		全世界	77,608,736	100.0%

**MENA 各国の一人当たり GDP(2014年10月値)**

順位		国名	2014年	2011年	増加率
11	Algeria	アルジェリア	5,886	5,431	8.4%
5	Bahrain	バーレーン	28,424	25,728	10.5%
17	Egypt	エジプト	3,337	2,960	12.7%
13	Iran	イラン	5,165	7,200	-28.3%
12	Iraq	イラク	5,687	6,474	-12.2%
4	Israel	イスラエル	37,914	34,291	10.6%
14	Jordan	ヨルダン	4,618	5,460	-15.4%
2	Kuwait	クウェイト	44,850	41,853	7.2%
8	Lebanon	レバノン	10,531	9,145	15.2%
10	Libya	リビア	7,942	5,840	36.0%
16	Morocco	モロッコ	3,392	3,082	10.1%
7	Oman	オマーン	21,688	22,623	-4.1%
-	Ppalestine Autonomy	パレスチナ自治政府	-	-	-
1	Qatar	カタール	94,744	99,431	-4.7%
6	Saudi Arabia	サウジアラビア	25,401	23,594	7.7%
-	Syria	シリア	-	-	-
15	Tunisia	チュニジア	4,467	4,305	3.8%
9	Turkey	トルコ	10,518	10,476	0.4%
3	UAE	UAE	44,771	40,817	9.7%
18	Yemen	イエメン	1,655	1,302	27.1%
		MENA 平均	20,055	19,445	3.1%
		(GCC6カ国平均)	43,313	42,341	2.3%
		米国	54,678	49,746	9.9%
		日本	46,175	37,540	23.0%
		中国	7,572	5,429	39.5%